

Breath Amorphous 消息の

将来



Breath Amorphous 消息の

将来



SHUZO AZUCHI

GULLIVER

シュウゾウ・アヅチ・ガリバー

SHUZO AZUCHI

GULLIVER

シュウゾウ・アヅチ・ガリバー

10/07 FRI. - 11/27 SUN. 2022
[52 days / open 11:00-19:00]
全52日間会期中無休
開場時間/11:00-19:00
主催: BankART 1929 共催: 横浜市文化観光局 協力: SAGYO, Tokyo. 2会場同時開催

BankART KAIKO
横浜市中区北仲通 5-57-2 [第2会場]
KITANAKA BRICK & WHITE 1F
KITANAKA BRICK & WHITE 1F,
5-57-2 Kitanakadouri, Naka-ku, Yokohama, Kanagawa

10/07 FRI. - 11/27 SUN. 2022
[52 days / open 11:00-19:00]
全52日間会期中無休
開場時間/11:00-19:00
主催: BankART 1929 共催: 横浜市文化観光局 協力: SAGYO, Tokyo. 2会場同時開催

BankART Station
横浜市西区みなとみらい 5-1 [第1会場]
新高島駅 B1F
SHIN-TAKASHIMA Station B1F,
5-1 Minatomirai, Nishi-ku, Yokohama, Kanagawa

Breath Amorphous

消息の将来

決して人間は溺れてもいないし船酔いを起こしてもいないに違いない。

しかし我々は藁を掴むように言葉、数、像、神を夢想する。

世界は常に初めての存在で次々と留まることのない単一な総体のように見える。

わからないものをXと置くような数式の不思議さや有効性をいかに実感するのか。

「しっ!あの窓から漏れている光は何か、何かを話しているが、別に何も言っていない。」

これはゲーテが「ファウスト」の中に書いた台詞である。消息はこの光に似ている。

何の消息であるのか等と聞く必要はない。我々と我々の知っている、我々の目のものとの間に消息はある。

それは目のものを一部ともするこの単一な総体の作用や機能の頭れであろう。

赤裸々で啞然とさせる、このビッグ・バンのようなノイズは我々の上で焦点を結ぶ。

この焦点の皮膜、その機能こそ消息で、その克明さが我々そのものなのではなからうか。

想起するという特性を持った物質が生体であるというバトラーの語り口に倣うなら、

消息へと機能する、特性を持った物質が我々であるといえよう。

消息の将来、将に来らんとする消息。

我々は我々の克明な消息を求め、その克明さ自体であり続けるに違いない。

シュウゾウ・アツチ・ガリバー

SHUZO AZUCHI GULLIVER

シュウゾウ・アツチ・ガリバー

1947年滋賀県大津市生まれ。

東京在住

1964年●ハブニング(パフォーマンス)等の自覚的な活動を始める。大学で哲学を学習、京都に滞在していたアメリカのビートニックたちと交流。

1967年●日本のフーテン(ヒッピー)を代表する1人として、マスコミで広く報道される。'具体グループ'に対抗して、関西の知人たちとグループ'PLAY'展を開催。60年代末実験的な映像作品の制作、日本のフルクサスのメンバーと交流。

1973年●代表的な作品とされる、死後、その肉体を80に分割し、その保管を依頼するプロジェクト'BODY'開始。

1990年●この頃よりヨーロッパでの活動が中心となる。

2000年●東京大学人工物工学研究センター研究員。

2010年●個展"シュウゾウ・アツチ・ガリバー EX-SIGN"(滋賀県立近代美術館)

2014年●プロジェクト'BODY' に対をなすようなプロジェクト、死ぬまでに発音する総ての音を、単音毎に贈与するプロジェクト'発音の贈与'開始。

2015年●個展"Kunst//Geschichten//Wuppertal: Shuzo Azuchi Gulliver La dolce Vita (1999)"(Neuer Kunstverein Wuppertal, ドイツ)

2017年●"エクスパンデッド・シネマ再考"(東京都写真美術館)

2018年●"1968年 激動の時代の美術"(千葉市美術館)

"On a bien accroché"(Maison Grégoire, ベルギー)

2020年●"恵比寿映像祭-時間を想像する"(東京都写真美術館)

個展"Shuzo Azuchi Gulliver's Cinematic Illumination"(ニューヨーク近代美術館)

自らの肉体のスケールや構造、さらにはヒトの生物学的な基盤(DNAなど)の記号性、またしるしやかたちそのものをめぐるパフォーマンスや立体作品、ドローイングを展開する。その活動は戦後美術に独自の位置を占め、その多様な展開は存在や自己に対する問いかけであり、あらゆる既成の枠組みを自明とせず、根源的な問題へと肉薄する姿勢に貫かれている。



La Dolce Vita 1995/A.T.C.G./Intercourse[Tokyo version] dedicated to Marcel Duchamp (1887-1968) and Erwin Schrödinger (1887-1961) 甘い生活 1995/A.T.C.G./インターコース[東京バージョン] マルセル・デュシャン(1887-1968)とエルヴィン・シュレーディンガー(1887-1961)に捧げる 1993-95 インスタレーション、ミクストメディア サイズ可変



S.A.G.銀行券/一眼 1997 インクジェットプリント、紙(エディション3) 2500×5000mm



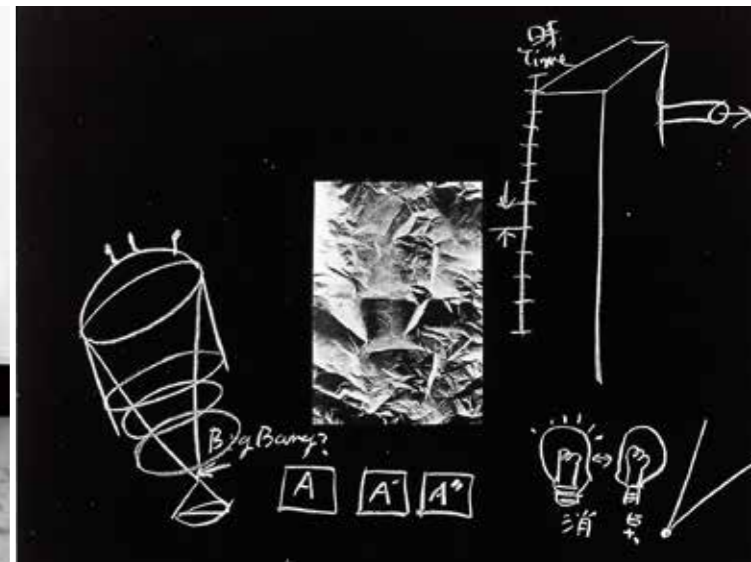
Watch 時計 1966-67 16ミリフィルム、モノクロ、サイレント20分



Body:contract #54/Shuji Terayama 肉体:契約 #54 寺山修司 1974 ミクストメディア 896×1199mm(フレームサイズ)



Weight [Human ball] 重量[人間ボール] 1978 ステンレススチール 半径119mm



Blackboard:Daily planet #3 黒板:デイリープラネット 1982 写真、チョーク、黒板、アクリルカバー 750×901×55mm



Substitution #3 代用#3 1995 金属ビグメント、鉛筆、紙 1091×788mm

シュウゾウ・アツチ・ガリバーは 1964年から制作を始め、その活動は半世紀を超え、1960年代後半の熱い文化芸術の現場を生きた現存する作家の1人です。近年は海外での作品発表が中心となり、日本では名前のみが一人歩きし、その興味深い作品や活動の詳細の多くは知られておりません。2020年、ニューヨーク近代美術館(MoMA)が彼の作品を収蔵、展示公開しましたが、このことも国内において知る人はごく限られています。1960年代の文化、芸術の掘り起こしが世界的な規模で進んでおりますが、BankART1929でもこの作家の貴重な活動を日本で広く文化芸術の地平に注ぎたいと思っております。作家は現在も現役で盛んな制作活動をしており、本展では新作も展示公開します。(池田 修)



Quantum 006[Gent version] 量子006[ゲントバージョン](部分)2017 インクジェットプリント、紙(木パネルで裏打ち) 1700×1700×18mm



問い合わせ: BankART1929 TEL 045-663-2812 info@bankart1929.com www.bankart1929.com

会期: 2022年10月7日(金) - 11月27日(日) 11:00-19:00(会期中無休)
会場: BankART Station + BankART KAIKO
入場料: 観覧のみ 1,200円 カタログ付チケット 3,800円
※中学生以下、及び障がい者手帳をお持ちの方と付き添い1名は無料
※BankART Station, BankART KAIKOに、会期中何度でも入場できるチケットです。

イベント(要予約)
'I am also quantum' 特別上映(上映時間: 32分 44秒)
11月3日(木・祝) 4日(金) 5日(土) 6日(日)
1日3回上映 ①12:00-12:35 ②15:00-15:35 ③18:00-18:35
'肉体のウラトリヒキによる失敗'(パフォーマンス)
11月13日(日) 16:00-16:30

イベント会場: 旧第一銀行横浜支店
横浜市中区本町 6-50-1 (みなとみらい線馬車道駅 1b 出口)
予約方法: 参加希望イベント日程、お名前、電話番号をご記入の上、右記までメールにてお送りください。info@bankart1929.com